

VOCU Magic BLEND Room ユーザーズ・マニュアル

このたびは、VOCU Magic BLEND Roomをお買い上げいただき誠にありがとうございます。Magic BLEND Room は2系統のパラレル・エフェクト・ループに様々なアシスト機能を付加したブレンド・ボックスです。主な機能として、☆2パラレル・エフェクト・ループ ☆フリケンシー・スプリッター ☆ロー・ブースター ☆ハイ・ブースター ☆レベル・ブースター ☆バッファ・アンプ ☆3チャンネル・パラレル・ボックス ☆3チャンネル・ミキサー ☆フェイズ・インバーター、☆ライン・セクターとして利用できます。代表的な使用例は裏面に記載しておりますので、参照してください。

各部の名称と役割：

① Input (インプット) ジャック

本機のインプット端子です。楽器を接続してください。このジャックは電源スイッチにもなっています。本機を使用しないときはこのジャックからケーブルを外してください。

② Output (アウトプット) ジャック

本機のアウトプット端子です。アンプや他のエフェクターへ接続してください。

③ Send A (センドA) ジャック

Loop Aのセンド端子です。エフェクターの入力端子へ接続してください。このジャックからはLo-Cutスイッチの設定に従ったシグナルが常に出力されていますので、パラレル・アウトプット・ジャックとして利用できます。

④ Return A (リターンA) ジャック

Loop Aのリターン端子です。エフェクターの出力端子へ接続してください。このジャックにケーブルを接続しなければ、Lo-Cutスイッチの設定に従ったシグナルがOutputへミックス出力されます。また、このジャックのみにケーブルを接続した場合には、そのシグナルはOutputへミックスされます。外部機器をこのジャックに接続することで本機をモノラル・ミキサーとして利用することができます。

⑤ Send B (センドB) ジャック

Loop Bのセンド端子です。エフェクターの入力端子へ接続してください。このジャックからはHi-Cutスイッチの設定に従ったシグナルが常に出力されていますので、パラレル・アウトプット・ジャックとして利用できます。

⑥ Return B (リターンB) ジャック

Loop Bのリターン端子です。エフェクターの出力端子へ接続してください。このジャックにケーブルを接続しなければ、Hi-Cutスイッチの設定に従ったシグナルがOutputへミックス出力されます。また、このジャックのみにケーブルを接続した場合には、そのシグナルはOutputへミックスされます。外部機器をこのジャックに接続することで本機をモノラル・ミキサーとして利用することができます。

⑦ LatchFS (ラッチ・フットスイッチ) ジャック

市販のラッチタイプ・フットスイッチを接続することで、Loop AもしくはLoop Bのミュート/ミュート解除がフットスイッチで行えます。MuteFSスイッチを上(B)にセットするとLoop Aが、下(A)にセットするとLoop Bが制御できます。もしもアンラッチスイッチを接続した場合には、フットスイッチを押している間だけミュートされます。

⑧ Loop A Low Cut (ループA ロー・カット) ノブ

Send Aジャックへ送るシグナルにローカット・フィルター（低音域を削る）を施すことができます。右に回すほど低音が削られます。Lo-Cutスイッチを下(Off)にセットすることでこの機能をキャンセルさせることができます。

⑨ Loop A Level (ループA レベル)

Return Aジャックからのシグナルのレベルを増減します。

⑩ Loop B High Cut (ループB ハイ・カット) ノブ

Send Bへ送るシグナルにハイカット・フィルター（高音域を削る）を施すことができます。左に回すほど高音が削られます。Hi-Cutスイッチを下(Off)にセットすることでこの機能をキャンセルさせることができます。

⑪ Loop B Level (ループB レベル) ノブ

Return Bジャックからのシグナルのレベルを増減します。

⑫ Mute FS (ミュート・フットスイッチ) スイッチ

MuteスイッチでLoop A/Loop Bのどちらをミュートさせるかを指定するスイッチです。上(B)にセットすればMuteスイッチでLoop Bのミュート、LatchFSジャックに接続した外部フットスイッチでLoop Aのミュートが行えます。下(A)にセットすればMuteスイッチでLoop Aのミュート、LatchFSジャックに接続した外部フットスイッチでLoop Bのミュートが行えます。

⑬ Dry (ドライ) スイッチ

ドライ・シグナル（インプット・ジャックからのシグナル）をアウトプットに加えるか否かを指定するスイッチです。上(On)にセットすればドライが加わり、下(Off)にセットすればドライをミュートすることができます。

⑭ Lo-Cut (ロー・カット) スイッチ

Loop A Low Cut機能の有効/無効を決定するスイッチです。上(On)にセットすればLow Cut機能が有効になりSend Aジャックから出力されるシグナルの低音をLow Cutノブを使って削ることができます。下(Off)にセットすればLow Cut機能は無効になり、全周波数（ドライ）のシグナルがSend Aジャックから出力されます。

⑮ Phase (フェイズ) スイッチ

Loop Bの位相を決定するスイッチです。Loop Aに接続されたエフェクターとLoop Bに接続されたエフェクターの位相が異なる場合に切り替えてください。並列に接続された機器の位相が異なる場合には、同じ周波数の音が打ち消されて

しまいイコライザーで任意の周波数をカットしたような状態になります。極端な例ですと、2つのエフェクターをバイパスさせた状態においては無音になってしまいます。まずは接続した2つのエフェクターをバイパスさせた状態でこのスイッチを切り替えて正常に音の出るポジションで本機を利用してください。フェイズ・アウトした状態が効果的なサウンドであれば意図的に位相を反転させることもエフェクト・テクニックのひとつです。

⑯ Hi-Cut (ハイ・カット) スイッチ

Loop B High Cut機能の有効/無効を決定するスイッチです。上(On)にセットすればHigh Cut機能が有効になりLoop B Sendから出力されるシグナルの高音をHigh Cutノブを使って削ることができます。下(Off)にセットすればHigh Cut機能は無効になり、全周波数のシグナルがLoop B Sendから出力されます。

⑰ True Bypass (トゥルー・バイパス) スイッチ

本機のオン/オフ・スイッチです。⑯のLED点灯時にループがアクティブになり、LED消灯時はインプットからのシグナルが本機の回路を通らずにそのままアウトプットへ出力されるハードウェア・バイパス（トゥルー・バイパス）になっています。

⑱ Mute (ミュート) スイッチ

Loop AもしくはLoop Bをミュート（無音化）させるスイッチです。Mute FSスイッチを上(B)にセットすると、このスイッチでLoop Bのミュートを、下(A)にセットするとLoop Aのミュートが行えます。⑳のLEDはループのアクティブ状態を示します。㉑LEDが青く点灯していればLoop Aのみがアクティブ、赤く点灯していればLoop Bのみがアクティブ、紫に点灯していれば両方のループがアクティブになっています。

㉒ DC 9v - 12v (パワーサプライ) ジャック

オプションのパワーサプライを接続して本機に電源を供給します。本機は006Pバッテリーでも動作します。左右2つのDCジャックのどちらを使ってもかまいません。もう一方のDCジャックは、他のエフェクターへ電源を分配するDCパラレル端子として利用できます。本機の構造上、パワーサプライをオフしたときに自動的に内蔵バッテリーへ電源を切り替えますので、バッテリーを内蔵している場合には、Inputジャックからプラグを抜いて本機の電源をオフしてください。

㉓ 006P バッテリーボックス

本機の底板を外すとバッテリー交換が行えます。

Magic BLEND Room スペック：

インプット：アンバランス、470 k Ω

センドA & B：アンバランス、1 k Ω

リターンA & B：アンバランス、510 k Ω 、Max +20 dB

アウトプット：アンバランス 1 k Ω

ハイ・カット：150 Hz ~ 8 kHz

ロー・カット：150 Hz ~ 8 kHz

電源：センター・マイナス直流9V ~ 12V、20 mA

006P バッテリーライフ：マンガン = 22 h、アルカリ = 25 h、終止電圧 5.4V

フットスイッチ：標準モノラルプラグラッチフットスイッチ（オープンショート）



使用例：

① パラレル・エフェクト・ルーブ

Loop A および Loop B へ任意のエフェクターを接続してください。Send ジャックからエフェクターのインプットへ、エフェクターのアウトプットから Return ジャックへケーブルを接続します。Lo-Cut および Hi-Cut スイッチを Off にセットすれば、全くコンディショニングの同じ並列のルーブです。Loop A Level および Loop B Level ノブを操作してそれぞれのルーブのレベルを調整します。

Lo-Cut および Hi-Cut スイッチを On にセットすれば、Loop A は出力を高音側に限定したルーブ、Loop B は出力を低音側に限定したルーブとなります。Low Cut および High Cut ノブを操作して、それぞれ限定する周波数をセットしてください。

ドライ・シグナルをエフェクト音に加えたいのであれば Dry スイッチを On にセットしてください。

もしも、2つのエフェクトのミックス時のサウンドに違和感を感じたならば、位相が一致していない可能性があります。Phase スイッチを Rev にセットしてみてください。

各ルーブのアクティブ / バイパス制御に関して

本機にオプションのラッチ・フットスイッチが接続されていない場合には、Mute FS スイッチで選択されなかった側のルーブは常にアクティブになります。ラッチ・フットスイッチを接続することで、はじめて両方のルーブを個別にアクティブ / バイパスさせることが可能になります。

Mute FS スイッチで A が指定されている場合には、Loop B は常にアクティブになっており、アクティブ / バイパスを制御できるのは Loop A だけになります。反対に、Mute FS スイッチで B が指定されている場合には、Loop A が常にアクティブになっており、アクティブ / バイパスを制御できるのは Loop B だけになります。

② イコライザー機能（ロー・ブースター & ハイ・ブースター）

本機には何も接続しません。レベルとフリクエンシーを調節していくと、ローを厚くしたり、ハイエンドを強調することができます。余分な周波数を取り除いただけの音をドライに加えていくので、イコライザーのような音質変化ではなく、自然な音質補正が得られます。Dry スイッチを Off のポジションにセットし、両方のルーブをアクティブにしてお試しください。

ローを強調したいのであれば、まず Lo-Cut スイッチを Off にセットし、Loop A Level ノブをセンター付近にセットします。次に Hi-Cut スイッチを On にセットし、Loop B Level ノブを適度に上げ、High Cut ノブを右から左へ回していった好みのポイントを探ってください。

ハイを強調したいのであれば、まず Hi-Cut スイッチを Off にセットし、Loop B Level ノブをセンター付近にセットします。次に Lo-Cut スイッチを On にセットし、Loop A Level ノブを適度に上げ、Loop A Low Cut ノブを左から右に回していった好みのポイントを探ってください。

また両方のカットフィルターを運動させることでミドルをブーストさせることも可能です。2つのフィルターの周波数が重複するようにノブをセットしてください。

③ 歪み系のミックス・テクニク

周波数ある程度カットしてから歪ませることで、全周波数が入力されていたときは異なるサウンドの歪みが得られます（※1）。どちらか一方をメインの歪みとして（Lo-Cut もしくは Hi-Cut スイッチを Off にセット）、キャラクターを変えるために補助の歪みを加える使い方も効果的です。ペーシストであれば一方をドライ用、他方を歪みにセットして、適度にドライを加えることで、歪みながらも音程感のしっかりとした腰のあるサウンドになります（ギター環境でも少しドライを混ぜることで同様の効果が得られます）。

※1 高音のヌケが悪いのであれば低音を適度にカット、低音を出したいのであれば高音を適度にカットすることで、好みの周波数帯域が前に出てきます。トーン

コントロールとは異なり不要な帯域をカットすることで、歪み自体の質が変わります。

④ 奇抜な空間系エフェクトの複合技

極端な例で言えば、低音域はディステーション / 高音域はクリーン、低音域はフランジャー / 高音域はコーラス、低音域はリバーブ / 高音域はディレイ、といった過去に例のない効果を生み出すことができます。

Lo-Cut および Hi-Cut スイッチを On にセットすれば、Loop A は出力を高音側に限定したルーブ、Loop B は出力を低音側に限定したルーブとなります。Low Cut および High Cut ノブを操作して限定する周波数をそれぞれにセットし、Loop A Level および Loop B Level ノブを操作して、2つのエフェクトのレベル・バランスを設定します。必要に応じて Dry スイッチを On にセットしてドライ・シグナルをミックスしてください。

また、ヴィンテージのエコーなどでドライサウンドの音質変化が激しいものなどは、本機からのドライをミックスすることで生き返ります。

⑤ ハーモニック・エンハンサー

本機単体でハーモニック・エンハンサーとして機能します。Dry スイッチ、Lo-Cut スイッチ、Hi-Cut スイッチを On にセットするだけです。低倍音を強調したいのであれば Loop B Level ノブを適度に上げてから High Cut ノブを左から右に回しながら好みの効果を探します。高倍音を強調したいのであれば Loop A Level ノブを適度に上げてから Low Cut ノブを右から左に回しながら好みの効果を探します。

⑥ ピンポイント・エキサイター

どちらか一方のルーブにパラメトリック・イコライザーを接続し、バイパスにしておきます。Lo-Cut スイッチと Hi-Cut スイッチを両方 Off にセット、Phase スイッチを Rev にセットして完全に音が消える状態をつくってください。そして Dry スイッチを On にセットします。あとはパラメトリック・イコライザーをオンにして好みの周波数をブーストすると、あら不思議！ブーストした周波数周辺の倍音だけが強調されます。

⑦ レベル・ブースター

Dry スイッチを Off、Lo-Cut スイッチと Hi-Cut スイッチを両方 Off にセットし、Loop A Level ノブと Loop B Level ノブを好みにセットしてください。バイパス、Loop A のみ、Loop B のみ、Loop A + Loop B の4つのレベルを制御できます。チューブアンプのプッシングをより細かいブースト・レベルで制御できます。

また、Hi-cut を有効にすればトレブル・ブースター、Lo-Cut を有効にすればボトム・ブースターとしても機能します。

⑧ バッファ・アンプ

Return A と Return B にはバッファリング回路が組み込まれています。アンプのセンド・リターンやマルチエフェクターの外部エフェクト・ルーブにインピーダンスの合わないエフェクトをインサートしたいときなど、本機のバッファリング機能により、インピーダンスをマッチングさせることができます。本機のアウトプットインピーダンスは約 1k Ω です。

⑨ 3チャンネル・パラレル・ボックス

Send-A と Send-B からは、常にシグナルが出力されていますので、これらのジャックはパラレル出力として利用できます。チューナー・アウトなどに利用してください。パラボックスとして利用するには Lo-Cut および Hi-Cut スイッチを Off にセットし、Loop A Level および Loop B Level を最小にしてください（上がっているとドライ・シグナルが Output にミックスされます）。

⑩ バイアンプ / フリクエンシー・スプリッター / チャンネル・デバイダー

Send A と Send B からパラレル出力を得る際に、Lo-Cut および Hi-Cut スイッチを On にセットすれば、ベースアンプのバイアンプ・システム（低音用と高音用にそれぞれ専用のアンプを利用する）や PA システムにおけるチャンネル・デバイダーのような機能が得られます。

⑪ 3チャンネル・ミキサー

Return A と Return B のみにケーブルを接続すればミキサー・インプットとして機能します。ドライ+2チャンネルのレベル&ミュート機能付き簡易モノラル・ミキサーとして本機を利用することができます。

⑫ デジタルマルチエフェクターの歪みに喝を入れる

モデリングアンプ・サウンドがまとまり過ぎていておもしろみに欠けると感じたら、アナログの歪みをブレンドして暴れさせましょう（もちろん、アナログ歪みの音にはデジタルマルチのエフェクトをかけることはできません）。

⑬ トゥールーバイパス

効果は気に入っているがバイパス時の音やセが気になってシステムに組み込むのをためらってしまうエフェクターも、本機ならばバイパスはハードウェア・トゥールー・バイパスなので全く問題く利用できます。

⑭ フェイズ・インバーター

本機の Loop B には、位相を反転させる Phase スイッチが装備されています。意図的に位相を反転させたいならば、Loop B へエフェクトを接続して、Phase スイッチを Rev へセットしてください。

⑮ センター定位キャンセル

Return A と Return B にステレオ・ソースを接続します。Lo-Cut および Hi-Cut スイッチを Off にセットし、Loop A Level と Loop B Level を同じレベルにセットします。Phase スイッチを Rev にすることでセンター定位のシグナルが打ち消されます。

⑯ 疑似ステレオ効果

Send A と Output をアンプに接続します。Send A Level を最小にセットし、Phase スイッチを Rev にセットします。左右で位相の反転したステレオ効果が得られます。Loop B Level で左右の音量バランスを調整してください。。

⑰ ライン・セレクター

Send A（もしくは Send B）と Output から2系統の機器へ接続し、Send A Level（もしくは Send B Level）を最小にセットしてください。True Bypass スイッチを押した際に、Send A と Output 間でシグナルのルートが切り替わります。

パワー・ユーザー様へ

トランジスタ・バッファ・アンプの追加

本機の Return 回路にはシンプルなバッファ回路が組み込まれておりますが、これはインピーダンス・マッチングを行うだけのシンプルなバッファ回路になっております。そのため、インピーダンス差が大きく異なる場合（極端にインピーダンスの高いギターや一部のヴィンテージ・エフェクター）や、エフェクト・チェーンのケーブル合計全長によるシグナルのロスを補うには、このバッファ回路では役不足となります。さらに強力なバッファ効果が必要となる場合には、本機のメイン基盤にいくつかの電子パーツを組み込むことで、トランジスタによるアクティブ・バッファ・アンプを本機の回路に追加することができます。

このトランジスタ・バッファ・アンプはインプットの直後に置かれるため、回路全体にバッファ効果が効くこと、トランジスタを通過することによる幾分の音質変化を伴うことをあらかじめ承知の上で、トランジスタ・バッファ・アンプの導入を決定してください。

トランジスタ・バッファ・アンプの導入方法は www.vocu.jp/MBR.html を参照してください。

※ 購入後の仕様変更も受け付けております。お気軽にご相談ください。

有限会社ヴォーキョ
171-0031
03-3950-5936

www.vocu.jp
東京都豊島区目白 4-36-6-302
support@vocu.jp